



だより



R6.9.17 Vol.19

ハッピーバースデーに思う

9月も何人かの子供の誕生日をウクレレ片手に祝いました。照れくさそうに歌を聞いている子供の表情が何とも言えず、可愛い。この世のメンバーになった記念日、大切にしたいですね。

4月当初は『一体、校長先生は何をやっているんだろう?』という目でも見られていたのですが、(笑)最近では周りの子供も「待ってました!」と言わんばかりに一緒に歌ってくれたり、手拍子で盛り上げてくれたりします。歌声が聞こえてくると、隣の教室からも、はせ参じ、廊下から顔を乗り出して祝ってくれることも。

少人数の学校ならではのすてきな光景です。これからもみんながみんなのことを考える学校を目指して、流しのウクレレ! 精進したいと思います。



雨が続けばいいのに…

下校時、子供との会話です。「校長先生! 聞いて! 私が帰る時はお母さん、家におらんけど、お姉ちゃんたちが帰る時はおるんで!」「○○ちゃんが帰った時も家においてほしいん?」「うん…。」「でも、山でお仕事しよるんやろ?」「そう…やけん、ずっと雨やったらいいなあと思う。」

本当は居てほしいけど仕方がないという何とも切ない気持ちが伝わってきました。でも私はこれでいいのだと思います。全てを与えるのではなく、仕方がないことは仕方がないと我慢することの大切さも学ばせる、とても大事なことだと思います。

いつかこの子が大きくなった時、親になった時、私たちのためだったんだと感じる日がきつくるでしょう。いろいろな愛情の形があることも知り、改めて親に感謝するのではないのでしょうか。

四方山話真穴 ver. 其の十九(教師の悪い癖?)

先日、「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の取組についての文書を配布しました。概ね良好な結果ではあったのですが、今回は課題について少し考えていきたいなと思います。

本校児童の課題としてあがったのは、「自分の考えを分かりやすく伝えることが苦手である。」「主語と述語の関係を捉えることが苦手である。」「式や言葉を用いて説明することが苦手である。」という点でした。ただこれは本校の課題というより、全国的に見ても今の子供たちの傾向であると私は考えています。そしてこれは私が教員になった三十数年前からも課題として散見されていました。ということは、もしかすると、その発達段階にいる子供たちに求めるものが高すぎるのではないかと思うことしばしばで悩ましいところです。国語と算数という学習の中での結果ではあるのですが、少し視野を広げてみましょう。

視点を変えると、「自分の考えを分かりやすく伝えることが苦手である」とは「自分の考えを伝えなくても不自由なく過ごせている」ということにはならないでしょうか? 学びの本質は、今より、よりよく生きたいという願いです。だからそれを伝えようとします。伝えなくても困らないのであれば、その必要はないですね。私たち教師(大人)は子供が失敗しないようなレールを敷きがちです。先にアドバイスをしがちです。そうすることで安心しているのはもしかすると教師の方かもしれません。まず子供に考えさせること、自分が何とかしないといけないという状況に子供をやらうことも教師の大事な役目のひとつだと思います。

主述の関係が捉えられない…これは若い子たちの会話を聞いていると何となく見えてきます。「マジ?」「やばっ!」「えぐっ!」この三つで会話が成り立っているのではないかという気すらしてきます。主述なんて影も形もありません(笑)「伝わりゃいいじゃん」という向きもあると思いますが、これから先、仲間内言葉だけで生きていくわけではありません。時と場合に応じた話をするためには、やはり主述の関係を捉える力も必要かと思っています。